大阪講座

SVOP：英語の理解のために

3日間集中:特別プログラム 全18ユニット

今まで英語の「会話表現」とか「口語的な表現」は「熟語(イディオム)」とか「会話の慣用表現」とか言われて、まるで「文法的でない表現」のように扱われてきました。けれども、それは現行の英文法が不備だったためで、英語のもとのアングロ・サクソン語(ゲルマン語)のロジックが文法化できなかったからです。ＶＳＯＰ英文法は、英語の日常語である**アングロ・サクソン語が、S-V-O-P：ワンパターンになっている**ことに気づきました。これによって、日本人がようやく英語の会話表現を「丸覚え」するのでなく、「言葉の使い方の決まり」として理屈で理解できるようになりました。英語の口語表現は、**「実にワンパターンな語順規則」**で使っています。先に「S-V」と「気持ち判断」を言い、その後ろに「O-P」と「その内容(対象)」を言うような**「ギャル語順」になっているのです。**この語順感覚を体得すれば「英語が自由に使える」ようになるのです。さらに、ビジネス英語や学術英語も、このＳＶＯＰで組み立てていることを説明します。

		品詞ではなく、SVOPの位置で使い分けている
1日目午後	UNIT- 1	気持ち・状態を表すには？　気持ちや様子を表す**形容詞**の使い方：前置詞が重要な意味を作っている。先に「話し手の判断・気持ち」を言い、その対象を前置詞句で言う。
	UNIT- 2	「前置詞」が動きや場所、状態を表す。**英語は前置詞中心で意味を作っており、**動詞中心に意味を作っていない。前置詞＋具体名詞と前置詞＋抽象名詞では、言葉の働きが違う。
	UNIT- 3	**「副詞」が「動きを表す言葉」**＝「動詞」は「動きの様子」を表している。**最も英語的な表現にもかかわらず**習えない。動詞＋副詞(句動詞)の使い方は同じ。熟語(イディオム)の一掃。
	UNIT- 4	be＋名詞：具体名詞と抽象名詞で使い方が異なる。I am a good time girl. と I am a girl of [a middle class] family. 具体名詞は対象語(O)、抽象名詞は判断語(V)
2日目午前	UNIT- 5	**Middle position（中位）の重要性：/V1+[Mid]+V2/：判断語の中間がmiddle position（中位）。**補助的な判断を表す言葉を入れる場所。「副詞」と呼ばれているがいろいろな種類の言葉を使う。
	UNIT- 6	**基本動詞**の使い方①**自動詞**：主語の状況を言う**自動詞**の使い方　Chapter 3 go, come, get, make, turn, stand, fall, remain など、自動詞の使い方は「補助語」
	UNIT- 7	**名詞を後ろから修飾している言葉：ネクサス(Nexus)と呼ぶ。**「形容詞用法」と呼ばれるが、形容詞に限らない。同じ後置修飾の関係代名詞との違いは「話し手の判断（V1）が有無。
2日目午後	UNIT- 8	**have の使い方**：「～がある」には have を使う。自・他動詞の両方の使い方をする。熟語(イディオム)の一掃。英語で一番使用頻度が高い言葉：have の**後ろのO-[V1]-P** が重要な情報を表す
	UNIT- 9	基本動詞の使い方②：「相手に～させる(使役動詞)」言い方はSVOP。 **多くの基本動詞は他動詞で使える**：ネクサス(Nexus)の理解が他動詞の理解
	UNIT-10	**doing形**は、「～している最中という行為」や「繰り返しの行為」を表す。進行形・動名詞・現在分詞形などの呼び方違いは、SVOPの中の位置の違い。
	UNIT-11	**to do(to-不定詞)は「これから[必ず]する[ことになっている]」**という意味。SVOPの何処ででも使う。位置によって意味が変わるのは、その位置の働きによる。
3日目午前	UNIT-12	**Have done/-ed(完了形) と be done/-ed(受動態)。**受け身の意味は be が表し、能動の意味は have が表している。done/-ed は、SVOPのどこで使っても「～し終わっている状態」を表している。
	UNIT-13	他動詞の使い方②：叙述語(P)が動詞の活用形の場合 他動詞の使い方が一番英語的な表現＝ネクサス(Nexus)だが、日本人に一番馴染みにくい。
	UNIT-14	**that-svop（that節）は、SVOPを一つにまとめる働き。**that節もS-V-O-Pの各場所で使う。SVOPの入れ子構造にして文を拡張していく。複文の作り方「Get The Real…英語参考書」Chapter13
3日目午後	UNIT-15	**8W1H：[who, what, when, where, why, how, which, whose, whom]**も、SVOPの入れ子構造。疑問代名詞・関係代名詞など、英文法用語が英語を分かりにくくしている。
	UNIT-16	**省略・強調・倒置**：文のいろいろな工夫も、SVOPになるように語順配置をしている。SVOPになっていないと文意が伝わらない。
	UNIT-17	**従属接続節：when, if, though, because**：同じ言葉のまとまりでも、SVOPの位置で働きが違う。SVOの前で使えば文頭句(Header)、SVOの後ろで使えば叙述語(Predicate)。
	UNIT-18	**文頭句(Header)：V2-O-[P] を主語(S)の前で使う。**分詞に限らずこの使い方をしているので「分詞構文」とか「副詞句・節」などと**「言葉の働きを品詞名で呼ぶ」**ので英語が解りにくくなっている。

※　受講までに**「世界で一つだけの英語教科書」**をご一読頂いておくと理解が深まります。

Structure of English　2013©VSOP E.G. Lab.